

VCube 簡易オペレーション・マニュアル



D S P J A P A N

Operation Manual

This page is kept for blank



Vcube の設定方法

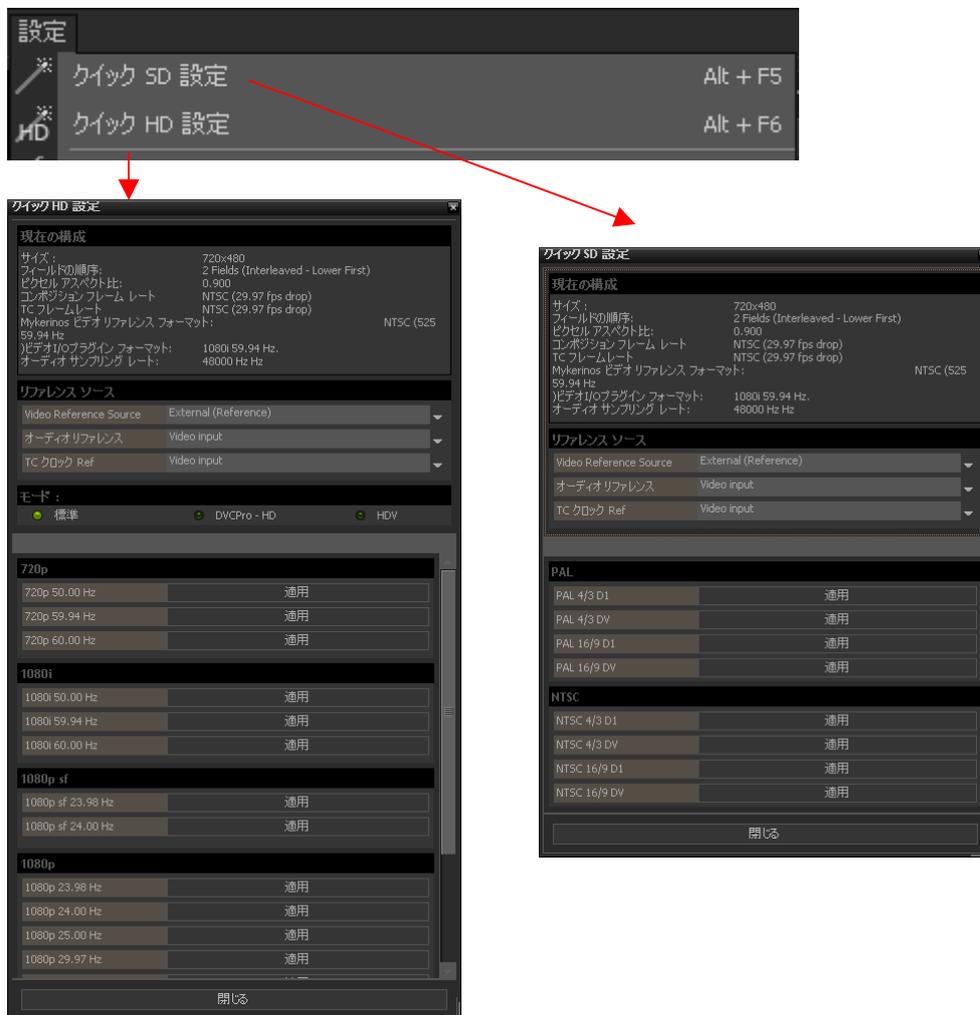
Vcube は、さまざまなビデオフォーマットに対応しています。

これらのビデオフォーマットは、入力や出力の仕様を含め、作業環境が大きく異なります。

作業環境をプリセットにより、変更が必要なパラメーターの全てを変更し、使用することができます。

このマニュアルでは、Vcube の作業環境を変更するプリセットの作り方について解説しています。

1. 「設定」メニューから、「クイック SD 設定」か「クイック HD 設定」を呼び出します。



これらの中から、最も適当なフォーマットをマウスのクリックにより選択します。

選択が有効になると、「現在の構成」の枠部分がグリーンに点滅します。

次に、「リファレンスソース」も「External」など、適当なパラメーターに選択します。

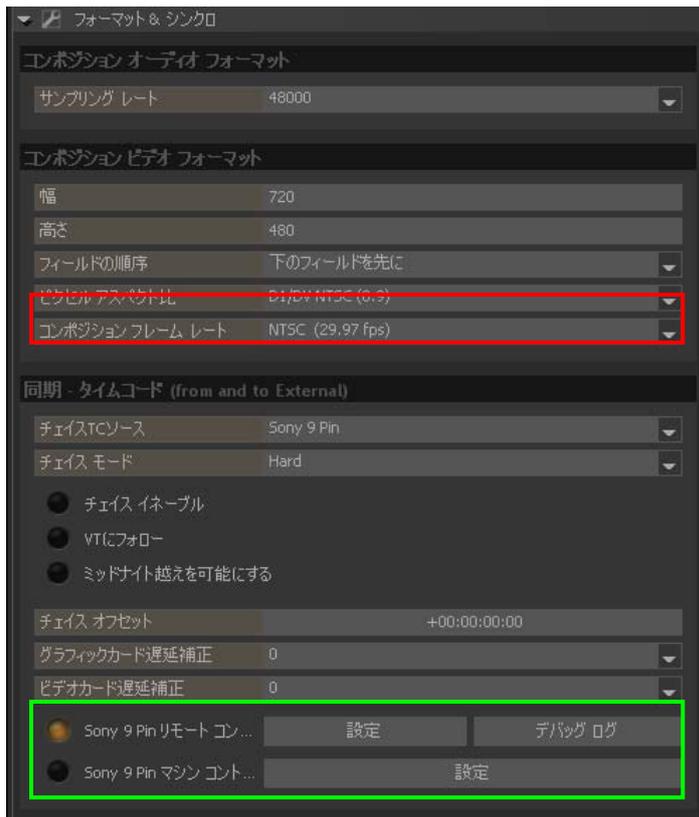


D S P J A P A N

2. タイムコード タイプとマシンコントロールの設定

次にタイムコードのタイプとマシンコントロール/リモートコントロールの設定を行います。

設定タブの「フォーマット&シンクロ」の中を設定します。



コンポジション フレームレートでドロップ/ノンドロップを選択します。

「Sony 9Pin リモートコントロール」にチェックを入れると、Vcube はスレーブ（デバイス）となります。

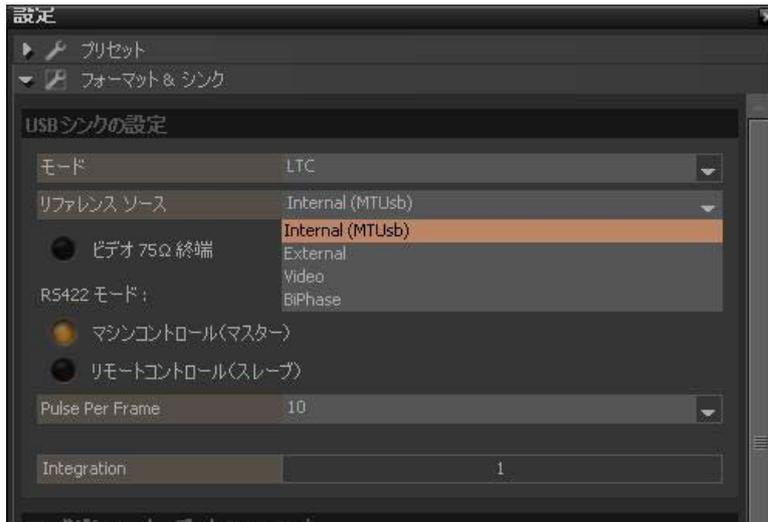
「Sony 9Pin マシンコントロール」にチェックを入れると、Vcube はマスター（コントローラ）となります。

どちらかにチェックを入れ、「設定」の中で正しい COM ポートを設定してください。



2.1 USB シンクボード

システム内に USB シンクボードが内蔵されているタイプの Vcube には、このタブの上部に USB シンクボードの設定が追加されています。次のページを参考にして、適切に設定を行ってください。



- モードは「LTC」に設定してください。
- リファレンスソースは、「Video」に設定してください。
- ビデオ終端は、カスケードをしていない場合、オンにしてください。

- RS422 モードは、使用状況に合わせて変更してください。

ただし、前項で設定した「Sony 9Pin リモートコントロール」 / 「Sony 9Pin マシンコントロール」の設定が勝ちますので、ここでは接続されたケーブルがストレートかリバースかによって設定を変更してください。

つまり、接続ケーブルがストレートでマシンコントロールを行うか、クロスでリモートコントロールを行う場合は「マシンコントロール (マスター)」を、それ以外の場合は「リモートコントロール (スレーブ)」を選択してください。

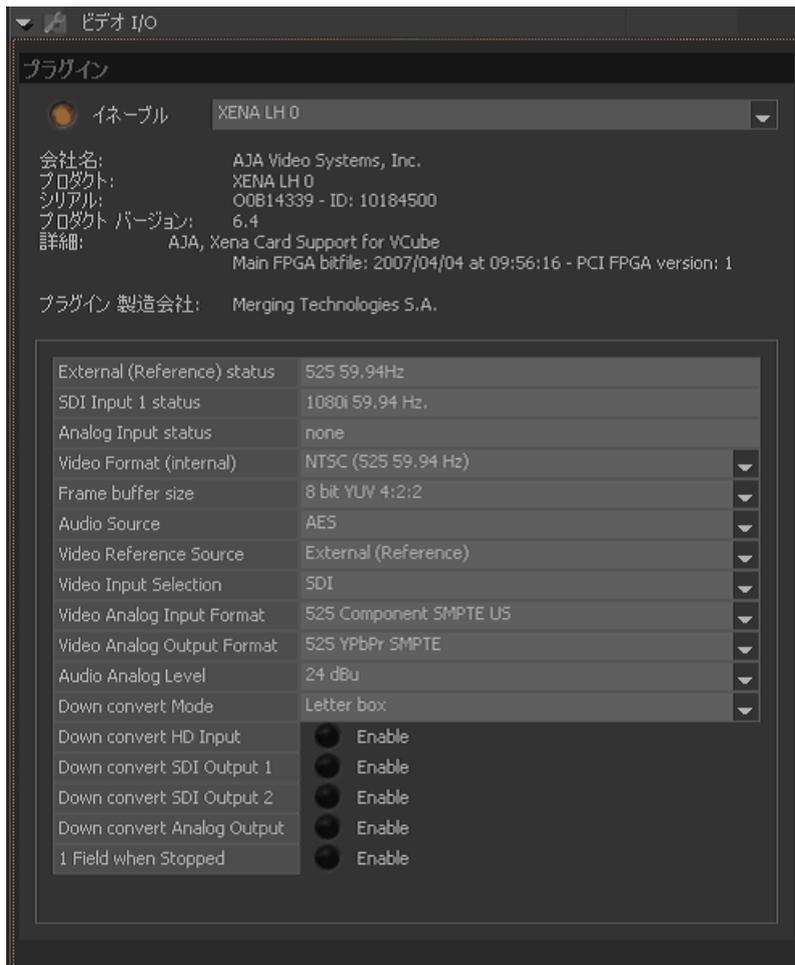


3. ビデオプラグインを設定

Vcube では、様々なキャプチャーボードをハードウェアプラグインとして扱っています。

クイック設定の後に、このキャプチャーボードの入出力の設定を正しく行う必要があります。

設定タブの「ビデオ I/O」を設定します。



設定するの項目は、

- Video Format 録画するビデオフォーマット
- Audio Source (必要なら) オーディオの取り口
- Video Reference Source ビデオリファレンスソースの取り口
- Video Input Selection ビデオ入力のコネクタ
- Video Input Format 入力するビデオの形式
- Video Output Format 出力するビデオの形式

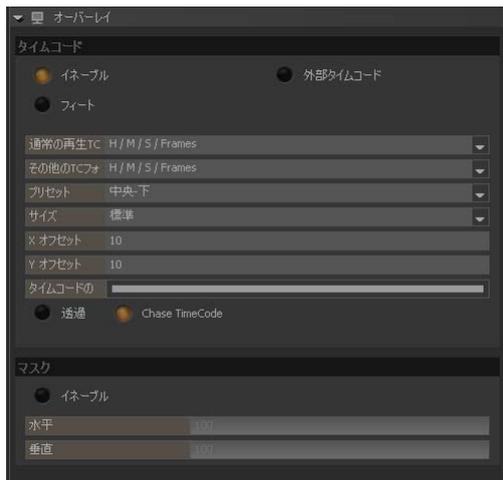
などです。



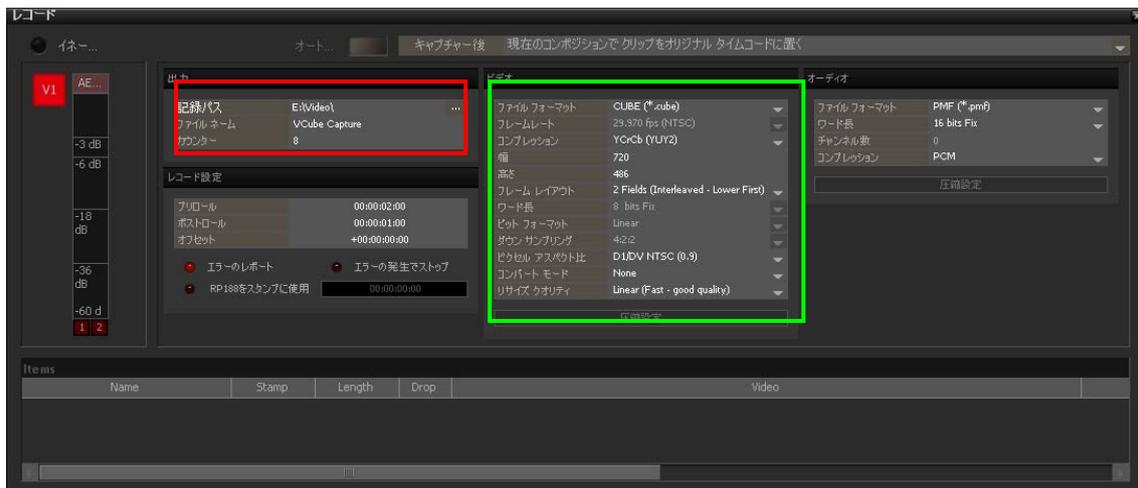
4. オーバーレイの設定

オーバーレイは、TC表示やウォーターマークの表示形式やOn/Offの設定です。

これらをプリセットに入りたい場合は、設定タブの「オーバーレイ」と「コンポジション」で適当に設定してください。



5. 最後に、録画/録音するファイルの保存場所とそれぞれのフォーマットを設定します。これらは、画面下のレコードタブで設定を行います。



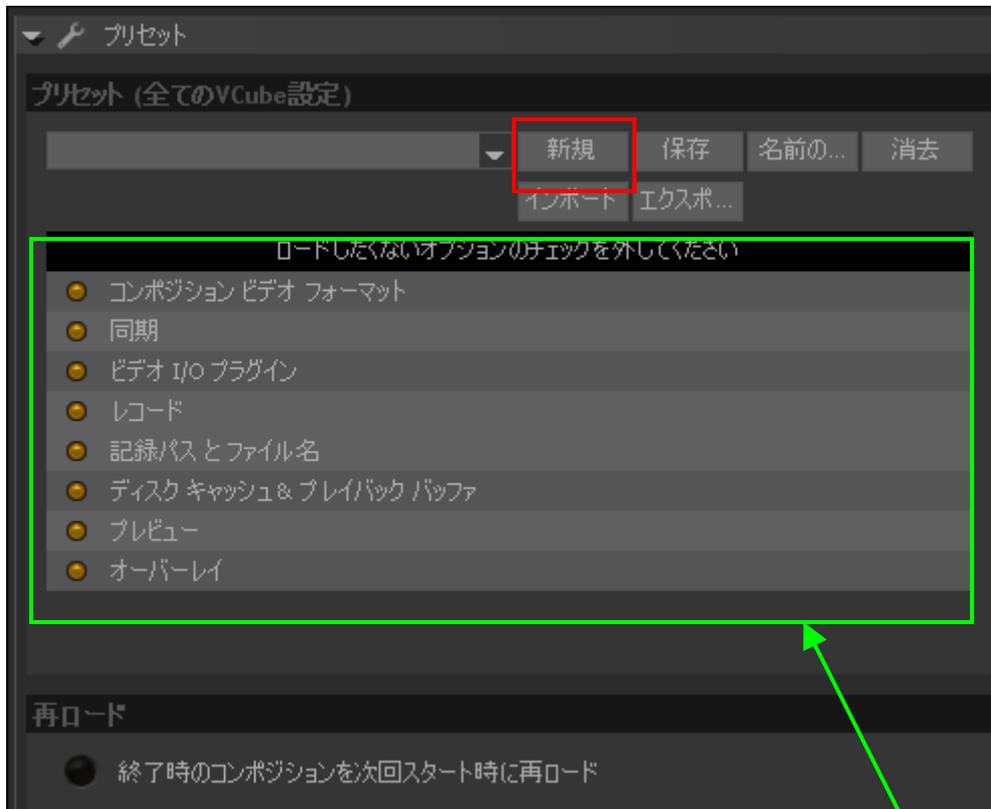
- 「記録パス」は、保存先のディレクトリーを
- 「ファイルネーム」と「カウンター」は、保存するファイルの名前を決定します。
- 「ビデオ」セクションの「コンプレッション」は、圧縮形式を決定します。通常のMA作業であれば、MHPEGをお勧めします。



6. プリセットの保存

以上の項目を設定したら、設定タブに戻り、「新規」をクリックします。

左上の欄が、白色に反転しますので、適当な名前を入れ、「保存」をクリックします。



次回プリセットを呼び出す時に、呼び出したいくないセクションがあれば、この中のチェックを外します。

ビデオのキャプチャー

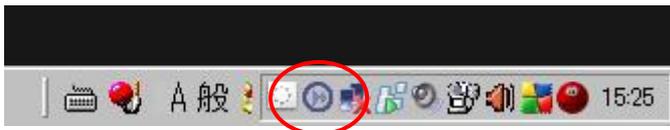
ビデオのキャプチャーには、大別すると3通りの方法があります。

- 1 ピラミックスと同時にビデオを録画する。
- 2 9ピン・デバイスとなって、外部コントローラからリモートをかける。
- 3 外部9ピン・デバイスをリモートして、外部デバイスのTCにチェイスする。

いずれの場合も、前項で設定したプリセットを呼び出した後、操作を行ってください。

1-1 ピラミックスと同時にビデオを録画する。

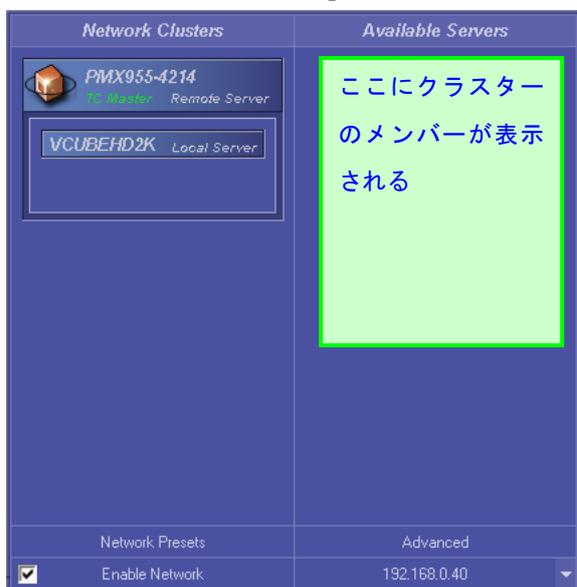
1-1-1 Vcube が起動している場合、Windows のタスクバー部分（画面右下）に下図の赤で囲んだのマークがあります。これは「Virtual Transport（バーチャルトランスポート）」と呼ばれる小さなソフトウェアが起動している事を意味します。このアイコンをクリックします。



1-1-2 クリックすると、リモートコントロール用のパネルが現れます。右の Net と書かれた赤いボタンをクリックします。



1-1-3 左下「Enable Network」にチェックが入っていて、ピラミックスが同じネットワーク上で起動して



いると、右コラム「Available Servers」に現れません。ローカルのマシンは紫色のアイコン、ネットワーク上のマシンは黄色のアイコンとなっています。まず、現れたピラミックス（黄色のアイコン）を左側のコラム「Network Clusters」にドラッグし、その中に Vcube（紫色のアイコン）をドラッグして入れます。



D S P J A P A N

1-1-4 以上でチェイス準備は完了です。2 の手順に進み Vcube を REC モードに入れ、ピラミックス側で VTR をリモートし、REC を入れてください。

1-2 9 ピン・デバイスとなって、外部コントローラからリモートをかける。

1-2-1 キーボードで「T」を押します。すると下図のようなトランスポートパネルが表示されます。パネルの中に「Remote On」と表示されていたら、外部 9 ピン・リモートコントローラからのコマンドにより、リモートがかけられます。Vcube を REC モードにし、録画を開始してください。



1-3 外部 9 ピン・デバイスをリモートして、外部デバイスの TC にチェイスする。

1-3-1 キーボードで「T」を押します。すると下図のようなトランスポートが表示されます。



上側が Vcube のトランスポート、下側が外部機器のリモートパネルです。

1-3-2 赤枠で囲んだチェイスボタンを押すと、下の緑枠で選択したタイムコードのソースを選択することができます（「EXT」は 9 ピンのタイムコードを意味します）。

1-3-3 Vcube を REC モードにし、リモートで外部機器を再生させ、録画を開始してください。



2. ビデオファイルを録画するディレクトリーとファイルの名前を設定します。

「レコード」タブを開け、下図のオレンジ色の項目を直接キーボードとマウスを使って入力します。



3. Vcube を録画モードにする。

「レコード」タブの中の、「イネーブルキャプチャー」と「V1」をクリックすると Vcube の EE 画面を PC モニター上で確認することができます。VTR をロケートさせて PLAY します。オーディオも録音するのであれば、オーディオトラックも Rec Ready にします（上図赤枠部分）。

4. VTR を再生させます。

録画したい位置に来たら REC キーを押し、録画状態に入ります。

- VTR が正常に再生をしていること（シンクにロックしていること）
- Vcube がタイムコードにロックしていること

を確かめてください。

5. PLAY キーまたは Stop キーを押し、録画（録音）状態から抜けます。

この時、Vcube を VTR にスレーブさせている場合は、VTR を止めるか、Vcube を停止させた後に Chase ボタンも解除してください。

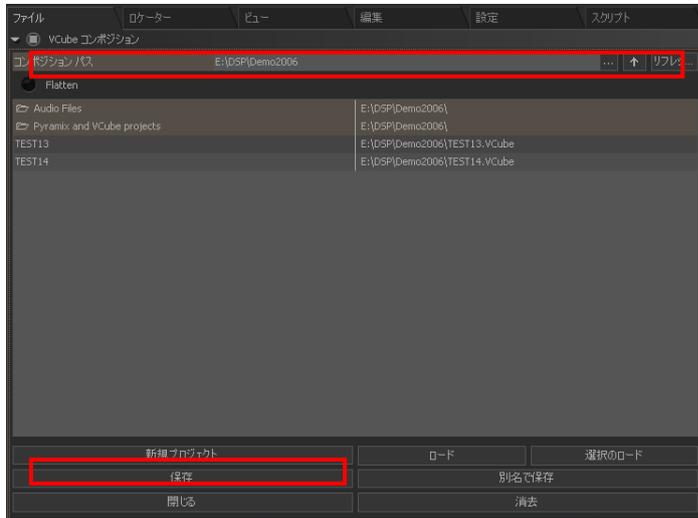
6. VTR をストップします。

7. 「レコード」の中の「キャプチャーイネーブル」をクリックし、再生状態に入ります。



D S P J A P A N

8. 「ファイル」の「コンポジションパス」をセーブしたいディレクトリーに設定し、「保存」をクリックします。



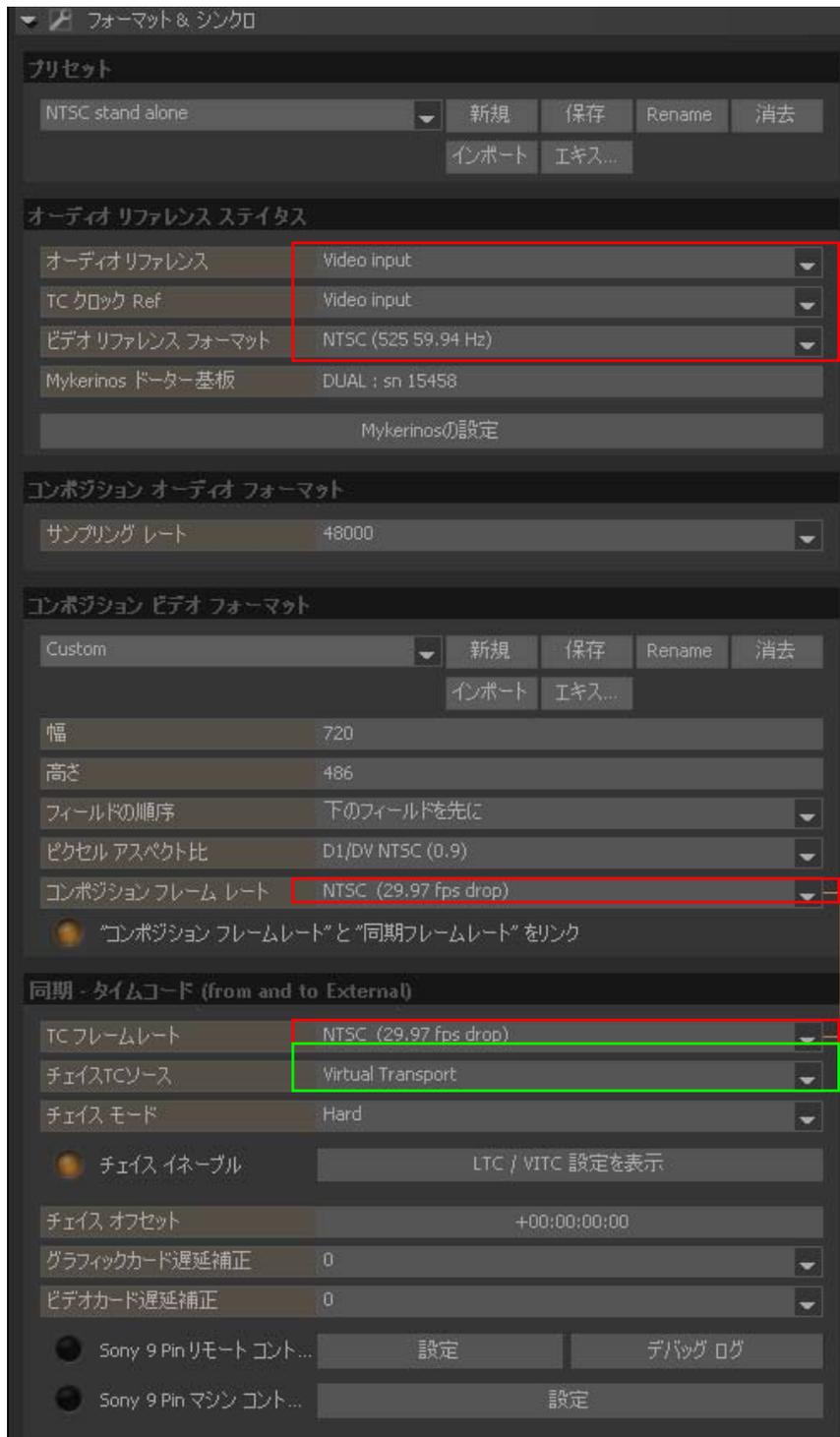
初回の「保存」では、VCube はファイル名を聞いてきますので、適当な名前を入力します。

OK をクリックするとこのコンポジションは、ディレクトリーに保存されます。



設定の注意事項 1

VCube は、非常に多くの作業環境に適応できるよう設計されています。そのため、設定も細かく変更することが可能です。この項では、NTSC 環境で使用する場合に、特に注意すべき点を挙げています。



オーディオを同時に録音する場合、リファレンスは Video input に設定してください。

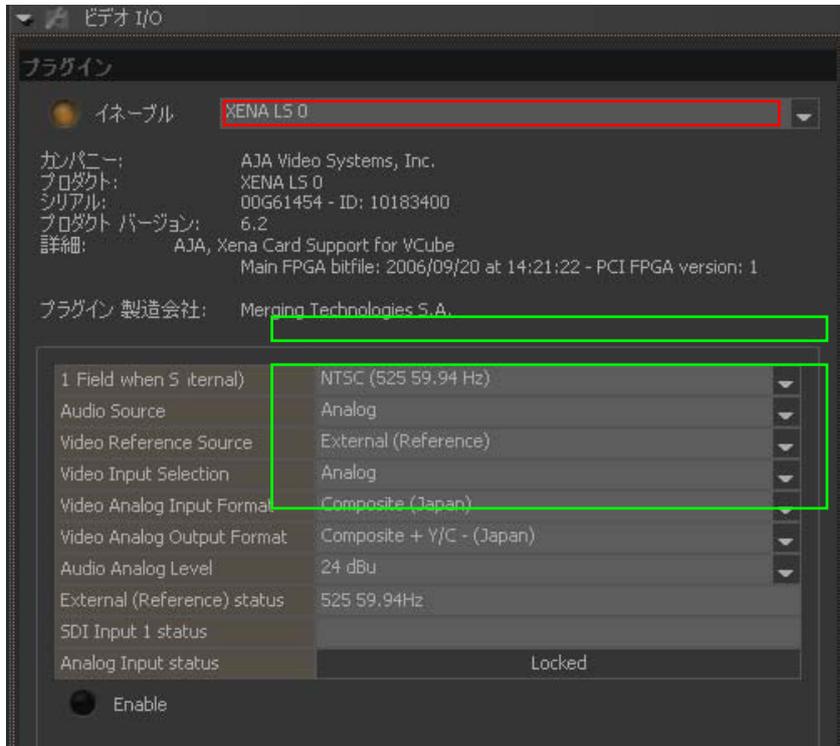
タイムコードのドロップ/ノンドロップは、正しく設定してください。

チェイス TC ソースを正しく設定してください。また、チェイス イネーブルをクリックし、オレンジ色にしてください。



設定の注意事項 2

VCube は、数種類のキャプチャーボード（ビデオ I/O）をハードウェア プラグインとしてサポートしています。従って、キャプチャーボードの設定も正しく行われている必要があります。



正しいキャプチャーボードを選択し、イネーブルをオレンジ色にしてください。

- NTSC (525 59.94Hz)
- リファレンスを External (Reference)
- ビデオ入出力を Composite (Japan) に合わせてください。